

といふ事になつて岡野は早速少佐の前に呼ばれた。そして間もなく少佐の宅へ引取られて少佐の義侠によつて中學も卒業し士官學校も卒業する事が出来た。

翌朝岡野に別れる時、「この次ぎには、陸軍大學かね。」といふと、「とても駄目です。」と答へて行つた。

數日經つと御禮の手紙が着いた。謹嚴なる文字と莊重なる字句は思はず私をして襟を正さしめた。そして一句一句には、青年士官の燃ゆるやうな愛國の精神が躍動して居た。

岡野の家で買った煙草盆がある。それを見るたび私はかの青年士官を懐ふ。

私がK町を去つてから恰度十年目の時だつた。「あの時分」の教へ子は私達のために謝恩

しに發つて居る。

一同の寫眞は又私の半生の寫眞であり、「あの時分」を語る尊き記念といはねばならぬ。

私は一先ここに「あの時分」の稿を終らんとするに當り、やゝもすれば先輩、知己に對し

### 朝鮮のおはなし(一)

岸 本 眞 治

禮を失したる點の多々あるを謝すると共に、なつかしき教へ子達の益々多幸ならんことを祈るのである。

(昭和三年三月十日陸軍記念日稿)

#### 序 辭

朝鮮はいいところです。

内地の様にコチャコチャでなくて――

満洲の様にバラバラでなくて――

(まだ見た事はありませんが)

會を催して呉れた。謝恩會……それは生涯忘るゝ事の出来ぬ楽しい一日だつた。

無邪氣な當時の少年少女達は皆立派な青年處女となつて居た。吉田老先生をはじめ、其他の職員とも久しぶりで逢つた。

東京へ行つた耳君、私より少し後れて他へ轉任されたS書伯とも逢ふ事が出来た。心からの歡待に私は胸が一ぱいになつて、壇上に起つて挨拶をした時は、思ふ事も言ひ得ず涙と共に壇を下りてしまつた。歸りには停車場まで見送つて呉れた。

その時一同が揃つて記念撮影をした。昔の下げ髪は廂髪か銀杏返しになつてゐるし、昔のグリグリ坊主は、オールバックなどに變つて居るが、無邪氣な愛らしい面影が皆その眼ざ

住む人たちだつて

内地の人の様に穿鑿好きでなくて――

満洲の人の様にホラ吹きでなくて――

(まだ聴いた事はありませんが)

兎に角朝鮮はいい所です。

朝鮮はいいところです。